

# 豊見城警察署協議会 議事概要

開催年月日	令和2年3月5日(木)17:00~18:15	
開催場所	豊見城警察署	
出席者	協議会委員 (8名)	當間 勇、比嘉 由美、狩俣 稔、中村 靖、小嶺 保 知念 茂之、前田 義仁、上原 悠
	警察署 (14名)	署長、副署長、刑事官、各課長等
議事概要	<p>1 会長挨拶</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 令和元年度警察署協議会代表者会議報告</p> <p>4 協議</p> <p>(1) 少年の健全育成について</p> <p>委員：自治会の不審者対策として自治会事務所を開放しているが、これまでに子供たちが駆け込むことがない。子供たちへの周知が足りないのではないか。</p> <p>委員：青色回転灯の車両で夜間の防犯パトロール活動をしている。公園などの街頭で集まっている子供を最近は見ない。パトロール方法の変更の必要性を感じている。</p> <p>委員：約20年前から、少年補導や防犯パトロールの活動をしている。先程の委員と同様で外で子供をほとんど見かけない。どこで遊んでいるのか疑問に思う。</p> <p>委員：普段、少年の健全育成活動に関わる機会が少ないが、現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学校の休校期間中に、子供たちが犯罪等に巻き込まれないかが心配である。子供たちの情報を学校と共有するなど、連携が必要ではないか。</p> <p>委員：長年、少年補導活動等に関わっており、子供たちの変化についてまとめてみた。</p> <p>1990年代は、授業の妨害、暴言、喫煙、暴力行為などを公の場で、かつ集団で行う傾向があった。<small>いしゅう</small></p> <p>2008年ころは、徐々に公園等での蝟集する姿がけなくなった。これは、SNSやゲーム等の普及が要因だと考えられている。</p> <p>また、SNS等のインターネットがいじめや不登校等の原因となったり、心因的な問題が子供たちの健全育成の阻害要因となったと考えられている。</p> <p>そのためにはやはり学校、地域、家庭等の情報共有がより必要ではないか。</p> <p>委員：スマートフォンを利用する少年が不登校になりやすい傾向があるとの分析結果がある。</p> <p>その原因は、スマートフォンの画面を見続けると寝付きが悪く、寝不足で起きることができず、結果、学校へも行けなくなり、授業もついて行けず、不登校になるという悪循環とにつながっていくらしい。</p>	

議事概要

他にも顔を合わせたことのない相手とSNSを通じて会話を  
するため、実際に初対面でも一緒に行動してしまい、犯罪に巻  
き込まれる可能性が高くなる。また、インターネット内でいじ  
めや金銭の恐喝もあると聞いている。

委員：子育てする母親として、なぜ子供たちが不良行為をするのか  
を考えている。

ボランティアで養護施設にお菓子を届けている。昨年、施設  
の子供たちから招待を受け訪問したところ、どの子供も優しく  
良い子供達であった。

母子家庭であったり、両親が共働きなどで家庭内で親とコミ  
ュニケーション不足が原因の一つであると思った。

家庭の事情は様々であるが、多くの子供は孤立感、孤独感を  
持っているのではないか。

委員：親の子育て次第で、子の成長に悪影響を及ぼすことがある。

子供の面倒を見なかったり、親の言葉遣いが非常に悪かったり  
するとその親の子は、すぐに「死ね」、「馬鹿」といった言葉  
を使う傾向がみられる。

委員：子供たちの健全育成は私たち大人が地道に声掛けする必要が  
あると思う。

警察：警察本部では、思春期の子供を持つ保護者の悩みを共有する  
場として「コスモス会」という研修会を開催している。

参加することで、親子関係が修復できたという事例もあるこ  
とから、協議会委員各位から多くの方々へ「コスモス会」の周  
知・参加、活用についての御協力をお願いしたい。

以上